

平成23年度宇都宮市学習と生活についてのアンケート（宇都宮市立清原北小学校3年）

■分析と今後の指導上の工夫

- ・ 「勉強が好きか」という質問に対し「好き」と答えている児童が多いが、教科による好き嫌いの差が大きい。理科や体育は肯定割合が高い反面、社会や図工は低い。ただし、その教科が将来役立つかの問いにはどの教科も高い肯定割合を示している。
- ・ 学習時間は、平日が1時間から1時間半の子が半数以上おり、学習習慣はできているといえる。休日にはほとんど学習しない児童が2割いるのは気になるが、金曜日にほとんど宿題を終了させるためと思われる。また、「その日のめあてを決めて家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合が低いので、学習への意識を高める指導が必要である。
- ・ 授業への取り組みについては、「授業に必要なものを忘れずに持ってきている」「学習をしていて分かることはうれしい」などの肯定割合は高いが、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」という肯定割合はやや低い。受身の学習から主体的な学習を意識づける支援が必要である。
- ・ 家の人、友達、先生に対してのあいさつの肯定割合は高いが、地域の知っている人へのあいさつの肯定割合は低い。特認校制度を利用して通学している児童にとっては、地域とのつながりが希薄になることも考えられる。
- ・ 「学校生活に満足している」という肯定割合は低くはないが、市の平均を下回っているので、教育相談等で具体的に情報を収集し、個々の児童のニーズに対応したい。「学校や公共の場所でのきまりやルールを守っている」という肯定割合は高い。
- ・ 平日の読書時間が3時間以上の子が1人いる反面、全く本を読んでいない子が3割もいるのは気になる。読み聞かせ、読書案内を通じて、本の楽しさや素晴らしさを伝えていきたい。
- ・ 学校がある日の寝る時間については、10時ごろと11ごろの子が1名ずついる。また、5時前に起きている子が3名いるのも気になる。家庭と連携して、望ましい習慣をつけさせたい。
- ・ 「1日にどれくらいテレビ、ビデオ、DVDを見ていますか。」と「1日にどれくらいテレビゲームやパソコンをしていますか。」という質問に対しては個人差が大きい。時間の長くなっている子については家庭とも話し合っていきたい。
- ・ 毎日朝ごはんは食べてきている児童が多く、よい食習慣がついてきているようである。好き嫌いについては、「好き嫌いをしてしまう」子が4割もいるのが問題である。指導の工夫改善をしながら、家庭にも呼びかけていきたい。